



第42回発表会 10月12日(土) 17:00 開演 神戸文化大ホール 出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏衆  
プログラム

・届ける—東北の地震と津波と原発事故で亡くなった数限りない命たちへ ・ちょっとうれしいことばみつけたよ ・メリーさんと隠れ家

ゴールデンウィークが終わって振り付けが始まりました。暑い夏を乗り越えてみんな元気ががんばっています。そしてもう早、発表会直前！  
今回の原稿は、「メリーさんと隠れ家」の「子ども」の役の8人と、「ちょっとうれしいことばみつけたよ」を振り付けた先生たちに。「子ども」の役ってどんなの？何を  
するの？それぞれちょっとうれしいことばをどんなふうに解釈して、どんなふうに振り付けたの？ 教えてもらいました。

## 「ちょっとうれしいことばみつけたよ」

多謝す

たしやす—深く感謝する。春の水辺でのシーンです。芹を摘みにきた女の子。水辺で足元が濡れてしまうので 石を踏んで芹を摘みます。

一方、水の中では、シラサギに狙われているメダカたちが石の影に隠れています。女の子もメダカも石にたくさん感謝します。

向井華奈子

春のほだし

ほだしは絆しと書きます。意味は元々は動物をつないでおく綱に由来するそうで、手かせ足かせ、自由を妨げるもの。この漢字をきずなと読めば、人と人の離れが  
たい結びつきを表します。今回の春のほだしは、和泉式部の短歌—あぢきなく春の命の惜しきかな花ぞこの世のほだしなりける—にあるこの世に私をつなぎ止める春  
の花を踊ります。春に次々に咲く花たちが、人の心を明るくして、去ろうとする人をこの世につなぎ止めてくれると信じています。

寺井美津子

田毎の月

お月さまは空に一つあるのに、小さなたんぽぽ一つずつ月が写っていて、なんだか楽しいうれしい光景です。そこへ、雁の群れが帰るときに立ち寄ったちょっとしたお  
話です。

藤田佳代

麦秋

麦の刈り入れは春の終わり頃。麦秋の頃の春の空は秋ほど高くはないけれど、白い雲が浮かんでいて一羽のトンビが広い空をゆうゆうと飛んでいる、そんなのどかな風  
景が大好きです。

藤田佳代

天津水

天からの水。恵みの雨のこと。乾ききった大地に雨乞いの舞。地霊たちの登場。そして…。

藤田佳代

水霊

西脇順三郎の「旅人かへらず」の冒頭部、とてもすてきな詩です。大人の内容ですが、子どもの神性をかりて作品にします。

旅人は待てよ このかすかな泉に 舌を濡らす前に 考えよ人生の旅人 汝もまた岩間からしみ出た 水霊にすぎない

菊本千永

瑠璃の水

愛媛県と高知県を流れる仁淀川。この世のものとは思えない青色の川。仁淀ブルーと呼ばれる水の色。瑠璃の水は仁淀川を念頭に置きました。それにソライロタケとい  
う空色のきのこのフェアリーリング。青の世界に舞う真っ赤な紅葉。絶景をお目にかけたいと思います。

菊本千永

たのしみは たのしみは 朝おきいでて昨日までなかりし花の咲けるを見るとき

たのしみは 常に見なれむ鳥の来て軒遠からぬ樹に鳴きしとき これは、説明いりませんよね。

藤田佳代

垂氷 雪ふりつもり つららみて 谷の小川も音もせず 嶺の嵐 吹きこほり 滝の白糸 垂氷となりぬ

平家物語の中の一文です。平家一族の体も心も冷え冷えと凍り付き、その先には何も無い、これを表現するのにどうすればよいのか、悩んだ末に空手道の技を借りるこ  
とにしました。空手の型を借りてどこまでいけるのか分かりませんが、今回はお客様にはこの踊りで堪忍していただき、いつになるか分かりませんが、もう一度挑戦し  
ようと考えています。

藤田佳代

花信風

今は秋風が心地よい季節ですね。ちょっと“うれしいことばみつけたよ”の中の“花信風”とは秋ではなく春を知らせる風。花それぞれにそれぞれの風が吹いて咲かせる  
そうです。地球上の風はすべて繋がって世界中を流れています。そんな風が日本の春を知って、花を咲かせに吹いてくれるなんて、まさにかみさまの仕業！神秘！だ  
と思います。そして、花たちは風が咲かせてくれる時がくるまで、じっと待っていると想像すると、なんともほっこりして、ゆったりとした豊かな気持ちになります。  
今回選んだ春の花は4種類です。水仙は、まだ寒い時期に道端で、はなびらを揺らして咲いていました。沈丁花は、わたしにとって春を一番感じさせてくれる花です。  
姿は見えなくても運ばれてくるあまい香りが好きです。家の近くの公園で山吹を見つけました。鮮やかな黄色の花と目にまばゆい緑の葉。背筋をピンと伸ばしてくれ  
ます。北野天満宮で出会った梅はふくよかな香り。蕾に吹くまだ冷たい風はいいってどこからやってきたのでしょうか？そして、蕾たちに何て声をかけたのでしょうか。  
踊ってくれる大久保教室と兵庫教室の生徒さんはそれぞれにいろんなことをイメージしてくれていると思います。それぞれの役を楽しんで踊ってもらえたらうれしい  
です。

金沢景子

花の雨

花の雨は桜の咲く頃に降る雨のことだそうです。雨の中、傘を持たずに遊ぶ男の子と傘を持ってお迎えに来てくれる女の子を踊りにしました。

女の子役は傘を持って走ったり、回ったり、ポーズするので少し小さめのものを使っています。傘に振り回されず、元気に踊っています。

かじのり子

## 「メリーさんと隠れ家」

わたしはモダンバレエを今年の5月からはじめました。さいしょは、みんながやっているのを見て「こんなことできるかな？」と心配でしたが、やってみたらどんだ  
たのしくなってきた、できないのも、れんしゅうしているうちにだんだんできるようになっていきました。とくにうれしかったのは、さかだちがはじめてできたときです。  
なかなかできなかったのに、いえて何回もれんしゅうしていたら、ある日やっとできて、うれしすぎてびよびよんとひはねました。そくてんもさいしょは足首をのぼせ  
なくてうれしかったけど、先生に教えてもらって、自分でも「のぼす、のぼす！」と思ってやっていたら先生にほめてもらえるようになってきて、とてもうれしかったで  
す。きれいにできたのもうれしかったです。

はっぴょう会のふりつけも、さいしょはむずかしくてあまりうまくできませんでしたが、うごきをおぼえたらとてもたのしくなってきました。つぐみのおどりは鳥の気  
分になれるので大きいです。いしょうもとてもかわいくて、わくわくしました。メリーさんのおどりは、見回りに行くところが大きいです。パケツをもっておどるところ  
も、きゃくせきのよこから出るので、おきゃくさんがいっぱいわたしたちの方を見てほしいなあと思います。

安岡珠希 (小2)

わたしのこんかいのやくは、鳥と子どもです。鳥はオレンジと白のいしょうをきておどります。とりのなまえはツグミです。ツグミはちょっと大きく冬にやってきま  
す。だるまさんがころんだをしているみたいいうごきをします。わたしもできるだけそんなふうにおどってみたいです。

子どもはセリフがあります。大きいこえでうしろのせきのおきゃくさんまで聞こえるようにがんばりたいです。

住谷路 (小2)

私は「シオン」というとても美しい紫のお花の役です。工夫したのは初めて出てくることです。このシーンは、音楽がなった瞬間にダンスが始まるのです。実は、私はあまりピルエットが上手ではないので、どうしても緊張してしまいます。本番では、うまく踊ってみたいです。

もう一つの役は、「メリーさんと隠れ家」の「子ども」の役です。隠れ家でメリーさんに一人ずつお話を聞かせてあげます。その役を聞いたときはびっくりしました。一人ずつ見に行くときに、自分で考えた動きで踊ることになっているので、自分らしい動きで表現したいです。そして、今回はセリフがあり、大きな声で「本当にメリーさんを助けたい」という気持ちを見せつけたいです。  
住谷緒 (小5)

わたしは、子どものあきこちゃんの役をすることになりました。はじめてこのお話を聞いたときにおもったことは、日本とアメリカがまだ戦争をしていなかったときに、たくさんのお人形がアメリカからおくられてきたけど、アメリカと戦争になって、日本人はメリーさんのことを「敵国の人形」とよぶようになりました。そして、いっぱいのお人形が、たたかれたり、竹のぼうでつかれたり、しょうきやくされたりしてしょぶんされていきました。それがわたしの中では、とてもこわいなとかんじました。そのシーンの仮面の人たちとのおどりは、長い竹のぼうを持っていて、とてもはく力があります。しかも、わたしたちは一番近いところでみているのでとてもこわいです。

もうひとつの「ちょっとうれしいことばみつけたよ」では、つぐみという鳥の役をします。このおどりは楽しいお話です。つぐみのおどりを踊っていると、とても楽しくなってきました。このおどりでとくにがんばっているところは後転です。とてもむずかしくて、どうしてもあしがまがってしまうので、しっかりとばしてがんばりたいとおもいます。発表会まで、もっと上手になれるように、もっと練習します。ぜひみに来てください。  
坂本まつり (小5)

わたしは発びょう会にこどものやくとつぐみをやります。こどもは、空しゅうのばめんととプロローグです。プロローグではかめんをつけた人がいて、メリーさんがあぶないときに子どもたちがたすけます。さいごに、メリーさんをだっことおんぶをしてすしおどりします。空しゅうでは、火がもえあがっているのを子どもたちが火をけそうとするのです。メリーさんがあぶないので子どもたちが火をけてメリーさんをたすけます。

もうひとつのつぐみというのは鳥のことです。さいしょはびよんぴよんとんでできます。とちゅう、じぶんでつくったおどりをおどるところがあります。そのあと、なんんかずつでおどって、さいごはみんなでいきをあわせておどりします。

子どもは、てきやこわいのがいるけど、ゆうかんに前へむかうのがいいと思いました。つぐみはかわいく小鳥らしいえんぎをしたいと思います。

子どももつぐみも、いろいろたいせつなところやゆうかんなところがあってすごくいやくだなと思います。発びょう会ではがんばっておどり、楽しみたいです。  
吉川ひかる (小3)

わたしは バレエがだいすきです。せんせいに いっぱいおしえてもらって はっぴょうかいに できます。おねえちゃんの おともだちも できてうれしいです。  
藤井智優 (小1)

セリフがあるのは初めてなので、恥ずかしいですが、頑張ります。  
水谷静 (小5)

わたしは、今年はじめてこどもの役をします。今までとちがう役をするけど、がんばりたいです。

わたしがかわいそうだと思ったところは、アメリカからたくさんのお人形がおくられてきて、しばらくすると日本とアメリカの間で戦争が始まり、たくさんのお人形たちが、たたかれたり、竹のぼうでつかれたり、やかれたりしてしょぶんされていってしまいました。そこは、とてもかわいそうで、こわいなと思いました。

わたしが発表会でがんばりたいことは、シーソーの足をしっかりとのばすことと、みんなで心をつつしておどることです。全ての一つ一つの動きをきれいに見せられるように気を付けておどりたいです。

戦争のこわさや大変さ、かなしさを表現するのは、むずかしいと思うけど、自分なりにいっしょうけんめい表現して、戦争を知っている人や知らない人にも、伝わればいいなと思います。そして、戦争がない平和な世界になってほしいです。  
南琉花 (小4)

## 観に来て下さい！！

### 菊本千永モダンダンスステージV 11月9日(土) 17:30開演 東灘区民センターうはらホール

出演 石井柊結 高橋陽奈 谷川結香 吉川菜々子 岡村春花 中野菜歩 門家由采 村上美羽 菊原麻衣花 佐藤茉莉  
田中文菜 平岡愛理 梁河茜 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 金沢景子 寺井美津子 菊本千永  
プログラム across—わたしが生まれる 月の森にねむる カクレミノを編む 満ちる・10拍子のうた (作舞 藤田佳代)

前回のリサイタルから5年。私は命の多様なあり方をテーマに作品を創ってきました。命は流れていると感じます。空間上の移動だけではなく、その命が現在の命につながっていることは時間を流れる命を考えさせます。命は多様な在り方で次の命をつなぎ、広げてきました。

そのことに思いを寄せて、発表する作品を選びました。

再演となる「月の森にねむる」は、顧みられることなくなった命がテーマです。ひっそりと目覚め、誰に知られることもなくまたひっそりと眠りにつく命を踊ります。「カクレミノを編む」は、変容する命がテーマです。幼虫が蛹になり成体となるように、変容を余儀なくされた命を踊ります。

藤田作品である「満ちる・10拍子のうた」は、今、目の前で生きている命がテーマです。音楽はダンサーの十カウントに一回鳴らされる手拍子のみです。ダンサーたちは舞台上で、ギリギリの緊張感を保ちながら、まさに10カウントを生きます。

初演となる「across—わたしが生まれる」は、つながる命がテーマです。自分の命を考える時、いつも思うのは、一体どれくらいの人がわたしの命を押し出してくれたのか、ということです。多くの命が押し出してくれたから、今わたしはここに生きていることができ、そしてわたしもまた多くの命の一部として、他の命を押し出す存在である、そのことに主題を置いて、おそらくは実際には出会うことのない命どうしが交差する、いわゆる時計の刻む時間を超えた時間と命の流れを踊りにします。

・交差点にて ・新しい命の発露と、つかしい面影と ・再び、ここに の三楽章に分かれています。

今まで日程の都合で参加することのできなかつた、文化庁芸術祭に初めて参加できる運びとなりました。心地よい緊張感を感じています。

少しでも舞台の完成度を上げるために毎回のリハーサルを誠心誠意、作品と向き合っている。出演者も熱意を持ってリハーサルに臨んでいます。どうぞ、観に来て下さい！よろしくお願いいたします。  
菊本千永

## おつかれさまでした！

### ダンスブーケ2019 8月25日(日) 本部スタジオ

毎年8月の最終日曜日に行っているスタジオパフォーマンスです。原則としてジュニア生以上全員、作品を創って発表することになっています。小さな花を束ねたらブーケになるように、それぞれ小さな作品でも、持ち寄りば一つの公演ができるよ、という趣旨の会です。

ある意味で、ダンスブーケが一番緊張します。他の公演は、色んな人に注意を受けて手直しをして、何度もリハーサルをした後、お見せできますが、ダンスブーケは誰にもみせないまま、いいのか悪いのかも分からず、リハーサルを重ねたわけでもなく、つまり、他の公演では自信の抛り所になるものが何一つなく、発表しなければならぬからです。もっと早くに準備をするのだったと、いつも後悔の嵐ですが、観て下さった方には大旨好評です。

今年、ジュニア生たちは、前日に佳代先生から CD を渡されて、明日よ、分かっているね、創ってきなさいとの厳命を受けました。家に帰ってからどのように時間を過ごしたのか分かりませんが、みな、立派に作品を創ってみごとに踊りました。ダンスブーケが始まるまでの間、始まってから自分の順番が来るまでの間、それは緊張したと思いますが、素晴らしい踊りでした。今後の自信につながればと思います。来年ももちろん創るのですよ。みなさんもぜひ観に来てくださいな

プログラム across—わたしが生まれる 菊本千永 月の光 中野菜歩 楽しい農夫 大井遥 Dreaming 村上美羽  
あの日の空 門家由采 歲月不待 菊原麻衣花 ラプソディ 平岡愛理 田中文菜 music 佐藤茉莉  
HANANA 2 向井華奈子 彼女の延長・わたし かじのり子 あのときかもしれない 金沢景子 かぎろひ 寺井美津子